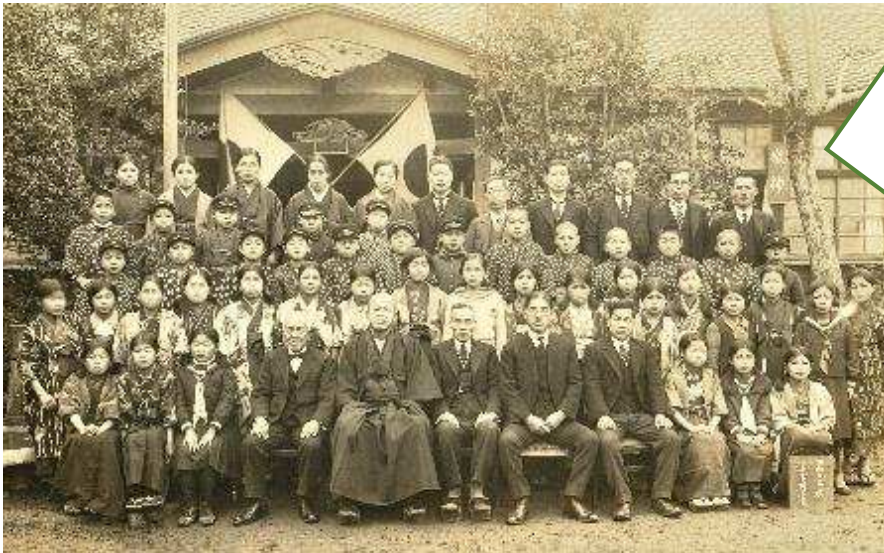




「風薫る好季」ではありますが、このところは寒暖差が大きいこともあり、そのことによるストレスも気づかないうちに受けていることもあるそうです。そんな時、市内の二つの古民家「中村家住宅」(レイクタウンと大間野)や元荒川河畔を散策するのは如何でしょう。市役所本庁舎8階の展望室からの眺めもいいです。

近代の地域の証人 学校史料

1年余り前から3回にわたって市域の近代教育150年の様子を展示紹介してきましたが、その過程でいくつかの学校の貴重な史料を拝見させて頂きました。その中で市立越ヶ谷小学校からは貴重な史料をご寄贈いただきました。総数約1000点余りで、学校経営や行事、教育課程に関するもの、写真等、実に多様な内容です。その一部をご紹介します。



尋常科卒業記念写真

昭和9年度(1934年度)

当時は世界恐慌の影響下であり、満州事変や国際連盟脱退後の閉塞感が募っていく時代でした。記念写真なので多くの人は盛装ですが、その中にも、時代の様子が垣間見られます。

正面玄関屋根の破風やその背後に掲げられている彫刻は、今も同校に保存されています。



校務日誌・宿直日誌

昭和16年度(1941年度)以降

学校の日々の出来事が記録されています。この中の記事を通して、当時の児童や先生方、地域の様子が浮かび上がってくる貴重な史料です。

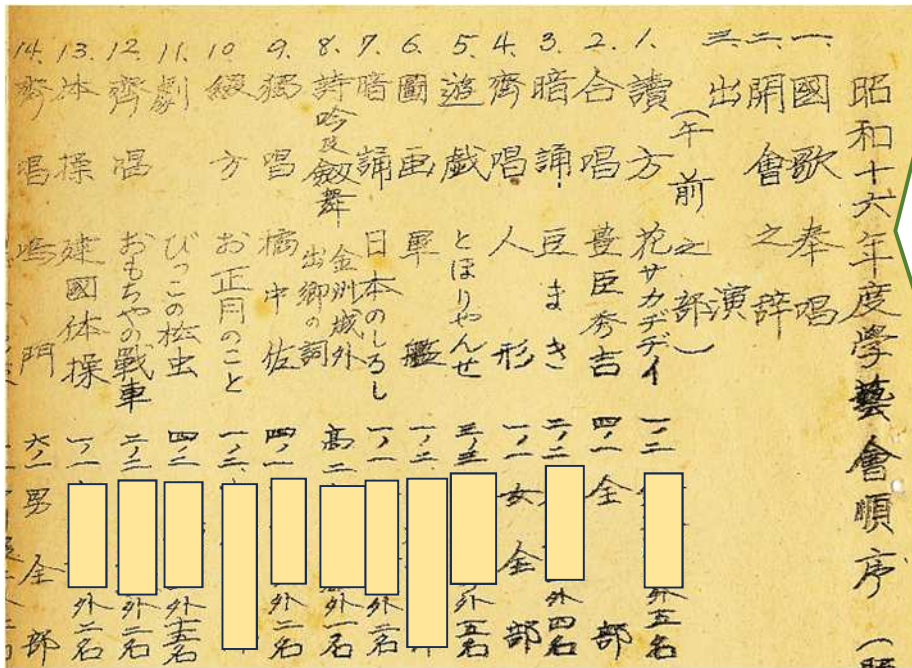


校印「埼玉県南埼玉郡越ヶ谷国民学校之印」

昭和16年度(1941年度)

～昭和21年度(1946年度)

太平洋戦争が始まった年から、小学校は国民学校と改められましたが、その時期の校印です。



学芸会プログラム (一部分) 昭和16年度(1941年度)

太平洋戦争が始まって2ヶ月後に催された行事です。“学芸”というので様々な分野の発表がありました。漢数字は学年・組で、「高二」は高等科2年(12歳)です。演目は56項目もあり、休憩や昼食をはさんで行われました。

保護者だけでなく町役場の人や地域の方々への招待もありました。終了後の「反省」も残されています。

寄贈されたこれらの史料は明治から平成までのものですが、学校現場や地域を通して観た近代史を活写するものになりそうです。これらはまだ整理中で、内容の詳しい確認もこれからですが、いずれ皆様に公開できるようになると思います。一部はすでに昨年夏に市立図書館で行った展示「越谷から見た近代教育」でご紹介しました。

あの“青い目の人形”は今...

かつての学校史料を観ていると、学校は今以上に地域の文化の中心地であったことが伝わってきます。このことは国内でのことに留まらず、外国との関係とも表すような世界史的意義を持った場合もありました。例えばアメリカから日本の学校に贈られた“青い目の人形”です。

昭和2年(1927年)、アメリカの宣教師でもあったギュリック博士は交流のあった渋沢栄一を介して、日本の各地の学校に13000体近い人形を贈りました。この内の1体が市立大沢小学校に所蔵されています。(右の写真)



私の名前は
マーサ・ヒース よ。
(当初はワテラ・ヘズと紹介されましたが、後にギュリック博士のご子息によりマーサ・ヒースの読み違いと指摘されました。)



(マーサのパスポート)

?: この時期、どうしてアメリカから人形が贈られたのでしょうか。

?: これに対してわが国はどうしたのでしょうか。

?: 各地に贈られた人形の多くは失われてしまいました。どうしてでしょう。

昨年3月～今年1月に「市内小学校開校150周年記念 越谷から見た近代教育」展示(第1部～第3部)を行いました。それを再編集したパネル展示を市役所エントランス棟の多目的ホールで、今年7月末～8月末を行う予定です。この展示(前期・後期の2部制)で大沢小学校の“青い目の人形”についても解説したいと思います。

防災に関する展示 苦難を乗り越えて—明治23年の水害—

5月25日～6月30日(水曜日休館)
レイクタウン:旧東方村中村家住宅にて開催